

津川地域未来創造事業 津川の未来へカムカム エブリバディ！Ⅲ

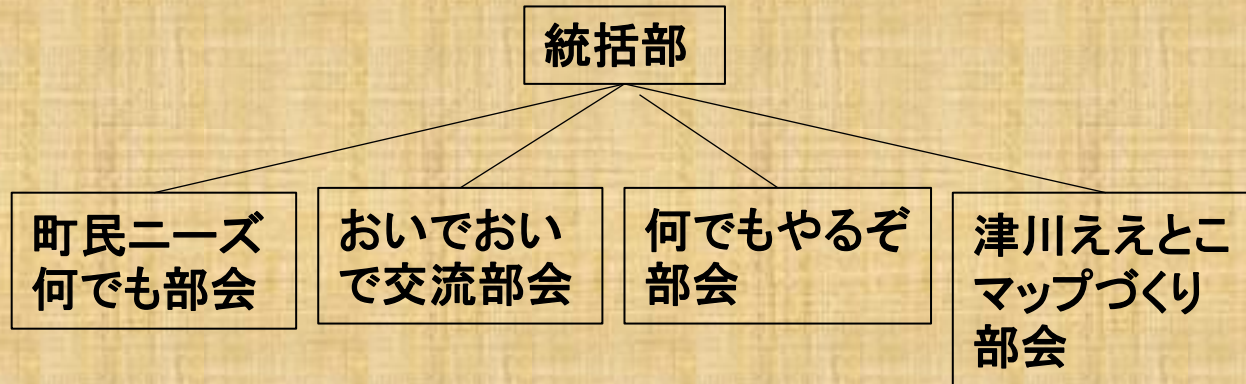


2023 最終年度報告

はじめに

本件は令和3年、津川町生まれの平川唯一氏と関連のあるNHK連続テレビ小説「カムカムエブリバディ」の放送を端にして「津川町を見直し、更に住みよい町にしよう！」との意図から始まった津川地域未来創造事業「～津川の未来へカムカムエブリバディ～」である。津川地域まちづくり推進委員会内に、事業推進のため4つの部会を設け、それぞれのテーマに沿った事業に取り組んだ。コロナ騒ぎの関係で、頓挫せざるを得なかったもの、さらに変更・修正・縮小したものもあるが、3年間「住みよい津川、ガンバロー高梁」の思いで活動を続けてきた。以下、事業の最終年度である今年度の取り組みをまとめた。

津川地域未来創造研究会 組織図



事業で取り組んだ内容及び成果

コロナ禍での活動制限が緩和された今年度は、休眠状態であったまちづくり活動・事業が行われ、人と人とのつながりが再び動き出したことは喜ばしい成果である。

1 津川ええとこマップづくり部会 （マップ部会）

<目標> 津川町の良いところ、自慢どころ等を子どもたちと一緒に顕彰し「津川ええとこマップ」の作成をとおして郷土の良さを見直し、誇りを喚び、住民の「まちづくり」の機運を高めるとともに、成果を地域内外へ広める。

<事業内容>

- ・「ええとこポイント」掲示用の津川町巨大マップを作製し、市民センターと津川小学校玄関に掲示した。
- ・津川小に町内の名所、旧跡、自慢ポイント、昔話ポイントなどが記入できる用紙を配布し、事業説明と記入の依頼をした。
- ・町歴史同好会会員が小学校へ出かけ、児童に町内巡りの講話をした。

<成果>

- ・家庭で津川町の良いところや自慢できるところの話題が生まれ、改めて、「津川町の強み（津川町の良さ）」を見直すきっかけとなった。 現在、記入ポイントは33件になっている。
- ・マップ作りを通して、平成16年と平成24年に歴史同好会発行の自作冊子（津川のむかし話、津川の歴史探訪）の改訂版（web仕様）制作の話題が持ち上がっている。（継続審議中） ぜひ、実現したい。

マップ部会の活動



令和5年9月30日

津川小学校保護者の皆様

津川地域まちづくり推進委員会
会長 紀田吉教

津川ええとこマップ作り ご協力のお願い

一昨年度、町民アンケートにご協力をいただきましたがその中で、津川町には良い所や他に誇れるところ、自慢できるものがたくさんあることがわかりました。また、住んでいる子どもたちが故郷津川に愛情を持ち、今以上に好きになってもらいたい、そして将来、自信をもって故郷の話してもらいたい。そんな願いを込めて当会では津川の良ところを記録に残す「津川ええとこマップ」を作成することにしました。

そこで、地域の皆様が「知っている」「覚えている」「こんなところがある」を子どもたちと一緒に探してください。家族の方、親せき、ご近所のおじちゃん、おばちゃん、おじいさん、おばあさんのお話も大歓迎です。お忙しいとは思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

下記のヒントを参考にしてください、別紙に記入して提出してください。

<記入ヒント>

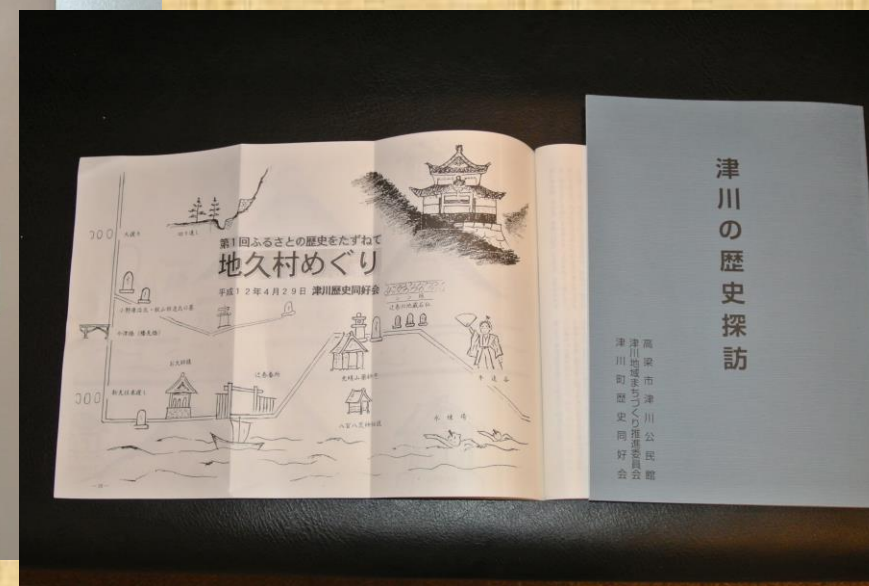
- 1 昔の津川の楽しい思い出や思い出の場所
- 2 有名な建物や場所（現在は無くても良い）、そこの思い出
- 3 おススメする場所や風景、名所、旧跡、その理由
- 4 ほかに人に自慢したい地域の祭りや行事、その時に食べた料理、食事など
- 5 お祭りや行事でしていたことや食べた料理、覚えていること
- 6 大人から入ってはいけないと禁止されていた場所、怖い話がある場所
- 7 その他（自分だけが知っている秘密の場所 例：マツタケがたくさん採れた山 など）

記録用紙は11月30日（木）までに津川小学校へお出しください。

※1 次の締め切りは上記のとおりですが、これ以降も常時受付をしています。みんなで「津川のええとこ」をどんどん増やしていきましょう。

<この件のおたずね・連絡先>

津川地域未来創造研究会
津川ええとこマップづくり部会
城 塚 治 己



2 町民ニーズ何でも部会（ニーズ部会）

<目標> 「まちづくり」に関する町民ニーズのある事柄を選抜し企画、運営、実施を行う。
また、これらに対応すべき次世代地域リーダーを育成する。

<事業内容>

- ・まちづくり意識の高揚のため、様々な場でマスコットキャラクター「きのりん」の活用を図った。
- ・アンケート調査から新しく設立したクラブ、同好会およびコロナ禍で休んでいたクラブの活動支援を積極的に行った。また、中学生のニーズから文化部活動の支援事業を行った。（お菓子づくり講座、麺づくり講座、イングリッシュキャンプ）
- ・部会研修会で「リーダーに求められるもの」の講話をしてもらった。
- ・リーダー養成を狙い、町行事に若者の積極的な参加を促すとともに企画、運営を委ね、成功体験を味わわせるようにした。
- ・中学生の授業（総合学習）で、町民アンケートを基に「津川町の強み・弱み」について講話を行った。
- ・若者（有志）とまちづくり推進役員で「まちづくり」を議題に意見交換会を行う予定。

<成果>

- ・「きのりん」を回覧チラシ、町広報誌、町封筒、うちわ等へ印刷して配布した。パネル、巨大看板を作りイベント時などに意識的に利用してまちづくり啓発を図っており、「きのりん」も町民によく知られるようになってきた。
- ・昨年度設立した健康マージャン同好会、手芸クラブ、ブックレビュー同好会、麺打ち同好会も活動が軌道に乗り、月1~2回で活動中。
- ・中学校文化部活動支援事業（お菓子作り(8/22)、麺づくり、イングリッシュキャンプ、(11/26)）では学校行事等の関係で数人の参加者ではあったが、文化部活動を望む生徒にとっては、良い機会となった。
- ・ふれあい祭りや歩け歩け大会では若者が積極的に企画・運営をしてくれこれまでとは異なる雰囲気での事業展開ができた。
- ・中学生の総合学習で「津川町活性化アイデア」を提案してもらったり、若者とのまちづくり意見交換会では互いに親睦も図れたりして、リーダー育成の芽が芽吹いたと感じる。

ニーズ部会の活動



強み	弱み
① 人が良い	① 店が少ない
② 当たり前のようにあいさつができる	② 人数が少ない
③ 顔を見たことがある人がたくさんいる	③ 野生動物の多さ
④ 鮎が美味しい	④ 虫が多い
⑤ 特産品がある	⑤ 草の多いところにゴミが捨ててある
⑥ コンビニが多い	⑥ 少子高齢化
⑦ 元気が良い	⑦ 花粉が多い
⑧ みんな優しい	⑧ 夜のバイクのエンジン音が響く
⑨ 地域の人とのつながりが強い	⑨ さくら公園の草が多くて遊べない
⑩ 自然が豊か	⑩ 歩道で整備されていないところがある
⑪ 自然がたくさんある	⑪ 田んぼに犬のうちがある
⑫ 森が多い	⑫ 大型ショッピングがない
⑬ 空気が良い	⑬ 危ない所がたくさんある
⑭ 木野山駅の桜	⑭ 知名度が低い
⑮ 緑が多い	⑮ 人口が少ない
⑯ 駅がある	⑯ 自転車の不法投棄
⑰ 祭がある	⑰ 子どもが少ない
⑱ 地域行事がある	⑱ ウィンバーイーツがない
	⑲ 整備されていないところがある
	⑳ 野生の動物が多い
	㉑ 空き家が多い



3 おいでおいで交流部会（おいでおいで部会）

<目標> 地域の各団体会員や地域外の方、海外の方と積極的に交流する場を設け相互に異文化体験をしたり、見分を広げたり、津川町の良さをアピールしたりする機会とする。

<事業内容>

- ・津川小学校児童・保護者、地域住民、在住外国人、消防団、敬老会、子ども育成団体が一堂に会して餅つき大会を行った。（学校と共催）
- ・吉備国際大学留学生を招き、イングリッシュキャンプ、麺うち体験を行った。

<成果>

- ・吉備国際大学留学生と中学生の語学交流・異文化交流（イングリッシュキャンプ・手打ちうどん体験(11/26)）を行った。生徒にとって、授業とは異なった英会話体験、また、留学生はうどん作りが初めての経験で、両者にとって良い機会になった。
- ・「餅つき会」は児童にとって「正月の文化」を体験するとともに、地域のお年寄りや青少年育成団体の大人、また居住外国人と身近な交流ができた。また大人にとっても子どもからのお茶や、つきたてお餅の接待を受け、楽しい時間が共有できた。このような活動を通じて、今後も町内の住民や活動団体やグループ、学校が共通の話題で交流や活動が進み「まちづくり意識」が高まっていくことを期待する。消防団の消火実演や放水のデモンストラーションは子どもにとっても有益な防災学習になった。

おいでおいで部会の活動



4 何でもやるぞ部会（何でも部会）

<目標>

既存団体と協力して津川地域の自然と環境を守りながら、その特性を生かした農林関係事業を行い、地域の活性化を図る。

<事業内容>

炭焼き同好会と協力して炭焼きの見学・体験会を3月10日に開催する予定で準備をしている。
蕎麦作り同好会と協力して、幼児の種まき体験、大学生、住民が参加しての種まき・刈り取り・脱穀の体験、そば打ち、試食会を行った。

<成果>

- ・炭焼き体験は活動時期や活動場所が特殊で限られているため、安全性の問題があり日程や場所の調整が困難であった。しかし、地域の自然と向き合わせながら子どもたちに昔の生活産業としての学習を楽しく体験をさせてやりたいとの熱意から、今年度末までには開催するように計画している。
- ・そば作りは昨年度の反省を踏まえ、作業効率を上げる工夫をした。さらに、今年度末で休園となる津川幼稚園児の思い出作りのため、畑の一角に園児の畑を設け、名札を掲げて種まきを体験させた。また、一連の作業(種まき(8/17)・草取り(9/2)・刈り取り(10/29)・脱穀(11/15))にも備中蕎麦を守る会会員や吉備国際大学生、幼小教員、多くの地域住民が参加してくれ汗を流した。製粉後、作業した関係者が集い、そば打ち、試食会(12/10)を行った。
- ・炭焼きやそば作りは「まちづくり」の活動として、老若男女が気軽に参加、体験できる機会となる。

何でも部会の活動



今後に向けて・・・

当町は高梁市街地にも近く、国道・JRも利用でき、便利さはあるので「なんとなく暮らしていける町」というイメージがあるが、実際には少子高齢化が進み、学校統廃合も間近に迫り、このままではすぐに「暮らしにくい町」になる。従って、「津川町の未来」を想い、どうしたら「豊かに暮らしていける町」になるのかを考え、少しでもそれに近づけるようにしていかなければならない。これは、住人一人ひとりが考えなければならない喫緊の課題である。

「津川の未来へカムカムエブリバディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の3年間の活動は、これまで「津川町のまちづくり」について、「あまり関心がない」とか「人任せ」の意識しかなかった住民に少しでも「わが町」について目線や意識を向けてくれ、動き出してくれるきっかけになったのではないかと思う。

しかし、まだまだ、活動や事業に関わったり、参加したりする人数は少なく、未だ“知らん顔”、“関係なし”の人も多くおられる。

そこで、先の3年間の活動と実績を踏み台として、次の一步を踏み出したい。

- ①「津川の未来へカムカムエブリバディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の3年間の活動を総括し、成果と課題を提示する。
- ②「新しい津川町」ため積極的に中・高生、若者の参画を促すとともに、町民に意見を問いながら「まちづくり意識」の高揚を図り、ニーズに沿った活動を企画・展開していく。
- ③町内会、各種団体、活動グループ等と相互の連携・交流を図り、「みんなのできるまちづくり」への積極的な参画を促す。
- ④まちづくり情報を町内へ積極的に広報する。 等

**ガンバロー 高梁の未来は津川から！！
これからもやっちゃんぞー！！！！**



ご清聴 ありがとうございます。